



'To acknowledge the duty that accompanies every right'
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

G/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2019年6月 No.445
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2016~2017)	クラブ役員 Officers
センテニアルクラブ会長 : 『吾只足知』 国際会長 : 『私たちは変えられる』 アジア地域会長 : 『アクション!』 西日本区理事 : 『未来に残すべきものを守り育てる』 中西部部長 : 『次代につなぐ夢と希望』	会 長 : 三浦 直之 副会長 : 中村 茂高 書 記 : 大村 肇 ドライバー : 松浦 孝次 会 計 : 岡本 剛介 メネット会長 : 山中 ちあき YMCA 連絡職員 : 船戸 輝久

Biblical Message of June

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は、決して滅びない。(コリントの信徒への手紙 I 13章 4-8節)

June Club Meeting

『評価・計画』

6月第1例会

- 日 時：2019年6月19日(水) 18:30~20:30
 場 所：ホテルグランヴィア大阪
 司 会：何 早林 君
- | | |
|------------------|--------------|
| 1. 開会 | 三浦 直之 会長 |
| 2. ワイズソング | 一同 |
| 3. 聖句朗読 | 松浦 孝次 君 |
| 4. ゲスト・ビジター紹介 | 三浦 直之 会長 |
| 5. 強調月間 | 三浦 直之 会長 |
| 6. 会長交代式 | 司式 掛谷太郎中西部部長 |
| 7. 晩餐 | 一同 |
| 8. 中西部部長方針 | 掛谷太郎中西部部長 |
| 9. 卓話「私と翻訳・通訳」 | 花本 茜 君 |
| 10. 連絡・報告・ニュース | 各メンバーから |
| 11. お誕生祝い/ニコニコ献金 | 一同 |
| 12. 閉会 | 三浦 直之 会長 |

お誕生日：角地メン、並木聡子さん

例会担当：2班：坂本、中村隆、中村茂、花本、何、藤原の各メン

6月第2例会

日 時：2019年6月26日(水) 18:30~20:30
 場 所：土佐堀YMCA会館4階



明日のことを思い煩うなかれ

中村 茂高

以前、私の友人がくれた1冊の本、五木寛之の「百歳人生を生きるヒント」。1932年生まれの氏が85歳の時に書いたものです。

その中で、長生きこそ幸せという価値観は、人生の充足感、達成感とは無縁のものであり、時には重荷。この世の去り時を各自が考えなければいけない時代に入ったと述べます。

国の「人生100年時代構想」。いったいだれが百歳人生社会を支えるのか。将来の介護、医療費の破綻がささやかれるなか、老後の破綻は他人事ではなく、将来に対する経済的不安は、シニア世代ばかりか、若い世代にも広がっています。AKBの指原莉乃が、「老後のために、趣味は貯金」と話題になったとか。

しかし氏は敗戦時に一夜にして家も財産も失った経験から、「一日一生」「明日のことを思い煩うな」と説きます。

ともかく、何があっても、今日一日を生き延びることこそがすべて。お金も、健康のことも。先日95歳で亡くなったドリス・デイが歌った「ケ・セラセラ」のように。「なるようになる。先のことはわからない」。私も同感です。

【クラブ統計 Statistics】

5月	種 別	第1例会	第2例会	BF ポイント	ニコニコ献金
在籍会員 18名	メ ン	11名	5名	5月 0g	5月 23,000円
例会出席 11名	メネット	2名	0名	現 金 0円	(FOP基金へ)
うちメーキャップ	ビジター	2名	0名	累 計	
0名	ゲ ス ト	1名	0名	切 手 204g	累 計: 209,250円
出席率 61.1%	合 計	16名	5名	現 金 0円	ホーワヨソ: 35,100円

【今月の聖句】

「愛」についての聖句です。まずそのままに読み、誰もが比較的容易に理解しうる聖句だと思います。

ただし、一体「愛」とは何者なのか？「すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える、愛は決して滅びない。」とあります。それは理解できても、「兄弟（広義）の過ちを許し、自らを叱責するということは、おそらく一番難しいことでしょう。私には自信がありません。が、その方向にむけての努力は惜しまないつもりではあります。

(聖句選/コメント：松浦孝次)

5月第1例会報告

と き：2019年5月15日（水）18:30～20:30
ところ：ホテルグランヴィア大阪

だいぶ熱くなった5月の例会は、長男の育海さん（21）が、小学生の時に筋肉が骨になる難病（FOP）を煩ったことがきっかけで、FOPにとどまらずCiRA（京都大学iPS細胞研究所）への基金、難病患者支援の活動を行っている山本智子さんを招き、お話を聴きました。

国内に80人の症例しかない中、育海さんは、2012年iPS細胞でノーベル生理・医学賞を受賞した山中伸弥所長に10年前に出会い、iPS細胞に望みをつなぎ、京大プロジェクトの治験に参加しているとのこと。このFOPは、身体に負担をかけてはいけない病気で、非常に我慢が強いられる病気とのこと。現在、口が開けられない状況で、わずかな隙間から、食べ物を細かく刻んだ物を食べているそうです。それでも「明るく生きようと二人で話す」と語る智子さんに私たちはとても心を打たれ、何か支援できないものかと思いました。本日集められたニコニコ献金2万3千円は、全てFOP募金に充てられました。

また、連絡報告では、何メンから先日のファミリーコンサートでは、ファミリアや三井住友からの寄付もあり、22万5千円の収益があったと報告がありました。

≡≡≡ Club Activities May 2019 ≡≡≡

We met again on Wednesday, May 15, 2019 at the Hotel Granvia for the month of May meeting. A total of 16 people including past RD Ono and his wife gathered. The emphasis of this month was on "Leadership Training," about which President Miura explained what the slogan stands for.

The guest speaker was Ms. Tomoko Yamamoto, whose son, 21 suffers from incurable disease called FOP

(Fibrodysplasia Ossificans Progressiva). There are only 80 patients of the disease now available throughout Japan. Her son, Ikumi has been suffering from development of abnormal bone cells in his body since his childhood, thus receiving clinical testing from Dr. Shinya Yamanaka, Nobel Laureate of iPS cell, and his medical group now seek a cure for Ikumi's incurable disease. His mother, Ms. Yamamoto and her supporters are appealing for contributions to the cause of the Yamanaka's research for the treatment.

Mr. Miura and his club members have also decided to make contributions to Dr. Yamanaka's medical study, wishing some day in the very near future that Doctor will succeed in the development of new treatment for the 21 years old young patient.

Mr. Ho, head of our Concert group reported that the Family Concert which the two clubs, Osaka Nakanoshima and Osaka Centennial host last May 11 was a great success, attract about 200 people including quite a large number of children. (See the photos)

We shared information about coming regional and area conventions coming soon.

Kan Tanikawa



育海さんを支援する神戸ポートの大野智恵メン



FOP 難病の厳しい状況を説明する山本智子さん



ノートルダム大聖堂の大火

先日パリ・ノートルダム大聖堂が大火に遭ったというニュースに衝撃を受けました。昔、この大聖堂でのミサに参列した時のことを思い出します。この時のカトリックのミサで、まるで啓示に近いものを感じ、私たちプロテスタントにない力強さを感じました。建物の壮大で独特の形状も忘れることができません。

フランスの象徴的場所であるシテ島に位置し、1789年のフランス革命の時に破壊と略奪に遭い、ナポレオン一世が、ここで戴冠式を行いました。この戴冠式を描いた絵が対岸のルーブル美術館にあります。フランスにとって聖地に近い場所であることから、再建のため多くの寄付が、一気に寄せられたというニュースに、さすがだと感じました。火災からわずか2日で、なんと米\$10億ドル相当に近い寄付が集まったと報じています。(NY タイムズ) 大口寄付者の中には、パリのモード界を代表するブランドの Gucci, Yves Saint Laurent などの Francois-Henri Pinault、さらに LVMH を所有するヨーロッパの大富豪 Bernard Arnault などがあり、それぞれ米\$1億相当の寄付を約束したそうです。このような寄付に対して、フランスの一般市民が感謝の意を示すかと思えば、必ずしもそうでなく、ことはそれほど単純でなさそうです。最近のフランスの置かれている複雑な状況を反映しています。

先日パリを席卷した「黄色いベスト運動」は、フランスでの所得不平等など格差の広がりがある原因で、富の偏在・集中への不満の表れでした。反政府デモは今も続いており、批判の矛先は、所得に見合った税金の支払いを回避しながら、ノートルダム寺院の修復のような目的には、名誉欲から多額の寄付を申し出る金持ちに向けられています。修復のための多額の寄金が簡単に集められるのなら、むしろ貧者に食料、シェルター、教育を提供すべきである、とする動きです。最近、EU に蔓延するポピュリズム (大衆迎合主義) の広がりと共に、仏社会は今回の火災後も一枚岩になれず、マクロン大統領にも焦りがみられます。写真は、ノートルダム寺院 (下) とルーブル美術館にあるナポレオンの戴冠式 (右下)。



5月第2例会報告

と き : 5月22日 (水) 18:30~20:00

と ころ : 大阪 YMCA 会館4F

出席者 : 石津、大村、芝田、中村茂、三浦

〈今後の例会予定〉

○7月例会 7/17 (水) 18:30~ホテルグランヴィア

・司会 : 大村メン

・聖句 : 谷川メン 巻頭言 : 中村茂

・総会 (決算・監査報告、予算説明=岡本メン
新会長方針)

・会員全員ショートスピーチ 1人1分以内

○8月なかのしまクラブ合同納涼例会 8/14 (水) 18:00~、ラルゴ (中之島フェスティバルタワー12階)

※アロハバンドを招いて (キックオフ以後、日程変更)

〈ワイズ活動〉

・西日本区大会 6/22 (土) ~23 (日) 大会、宿泊は各自で申し込む。又アヌ・モーリスとIBC 交流予定。

手土産の用意 20名分、京都和菓子を用意 (三浦)

参加者 : 三浦、大村、中村茂、芝田、石津、谷川、坂本千、何

・アジア太平洋地域大会 7/19 (金) ~21 (日)

仙台国際センター。大会、ホテルとも各自 WEB で申し込む。尚ホテルは団体行動がとりやすいようにアパホテル仙台駅北を推奨する。2/1~6/30 登録。

参加者 : 石津、大村、坂本千、中村茂、三浦ほか7名

〈その他〉

・6/26 (水) 17:30 第2例会前ウクレレ練習

※7、8月例会のため、「フォスター」など

(第2例会議事録より抜粋・補足)

YMCA ニュース

☆第314回早天祈祷会☆

日 時 : 6月21日 (金) 7:30~8:30

証 し : 柿島 裕さん (大阪西ワイズメンズクラブ会長)

場 所 : 大阪 YMCA 会館 10階チャペル

船戸 輝久





ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

《会員、メネットからのメッセージ》

○山本智子さんが息子さんの育海君の難病と闘いながら支援活動をされているお話を聞き、大変感銘しました。私達で何か出来ることがないか考えていきたいと思います。 (大村 肇)

○大変驚きました。応援したいと思います。 (岡本 剛介)

○「神様からの宿題」「神様からの奇跡の贈り物」となり、将来完治されます事を切に祈念申し上げます。 (芝田 光雄)

○自分自身の事だけでなく、他の難病の人たちの牽引役も進んで担っているお姿に感銘を受けました。 (中村 茂高)

○iPS細胞の可能性の大きさに改めて驚かされるとともに、難病が完治する事を深く希望します。 (坂本 千春)

○この難病は患者の数が少ないことからFOPを知ってもらう苦勞をされたようです。初めて知りました。iPS細胞の研究が、このFOPの治療に役立つなら、大いに支援してあげたいものです。 (谷川 寛)

○心に響くお話でした。何が出来ることを考えたいと思います。

(何 早林)

5/11 ファミリーコンサートの写真



後 記

6月に入り、暑く、もう梅雨の気配を感じる季節になりました。

5月は、ファミリーコンサート(11日)に、うなぎの森(12日)、キックオフミーティング(18日)と、あわただしく忙しい月でした。特にコンサートのみんなで事業の達成感は素晴らしいものでした。